

# ミクロ経済学入門

## 問題演習6

Chapter 6: Effects of a tax on buyers and sellers

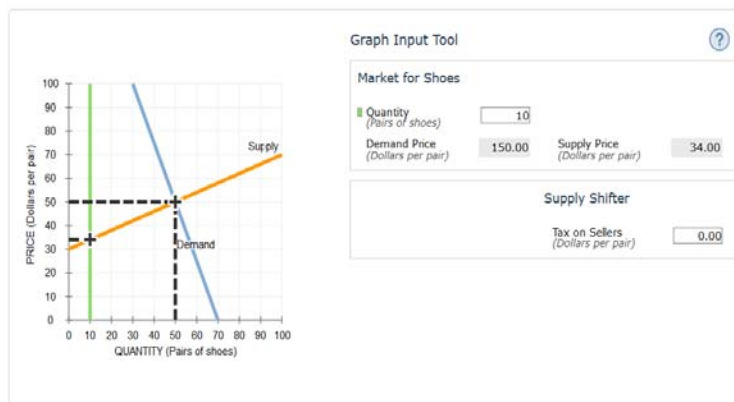
法政大学経営学部

### この問題で学ぶこと

1. 課税は誰に対して行われるか、把握すること。
    - 税の支払と負担は意味が異なると理解すること
    - 課税によって、買い手と売り手が税をいくら負担するか、理解すること
  2. 弾力性と税負担の大きさにどのような関係があるか、理解すること。
    - 需要曲線／供給曲線の傾きの大きさと弾力性の大きさとの関係
    - 弾力性の大きさと税負担の重さとの関係
- グラフやGraph Input Toolを使って問題の手順通りに作業を進めること

# Effects of a tax on buyers and sellers (Chapter 6)

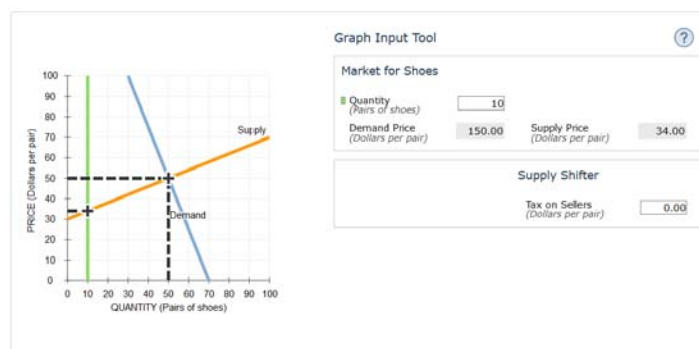
- The following graph shows the daily market for shoes when the tax on sellers set at \$0 per pair.
- Suppose the government institutes a tax of \$11.60 per pair, to be paid by the seller.
- Use the graph input tool to help you answer the following questions.
- 何の市場？ : 靴の一日あたりの市場
- 何のグラフ？ : 課税前のグラフ
- 課税 : 売り手に11.60ドルの課税を行う



Graph Input Toolの使い方を学び、問題を解こう。

## 問題を解く手順

1. To see the impact of the tax, enter the value of the tax in the Tax on Sellers field and move the green line to the after-tax equilibrium by adjusting the value in the Quantity field.
  - Tax on Sellersに課税額を入力する
  - 課税後の均衡点まで緑の垂直線を移動させる
2. Then enter zero in the Tax on Sellers field. You should see a tax wedge between the price buyers pay and the price sellers receive.)
  - Tax on Sellersに0を入力する
  - 買い手価格と売り手価格の間の差(税の楔)が分かる。



# Graph Input Toolの使い方

## ① 課税額をTax on Sellersに入力

- 供給関数がシフト

## ② 課税後の均衡数量を入力

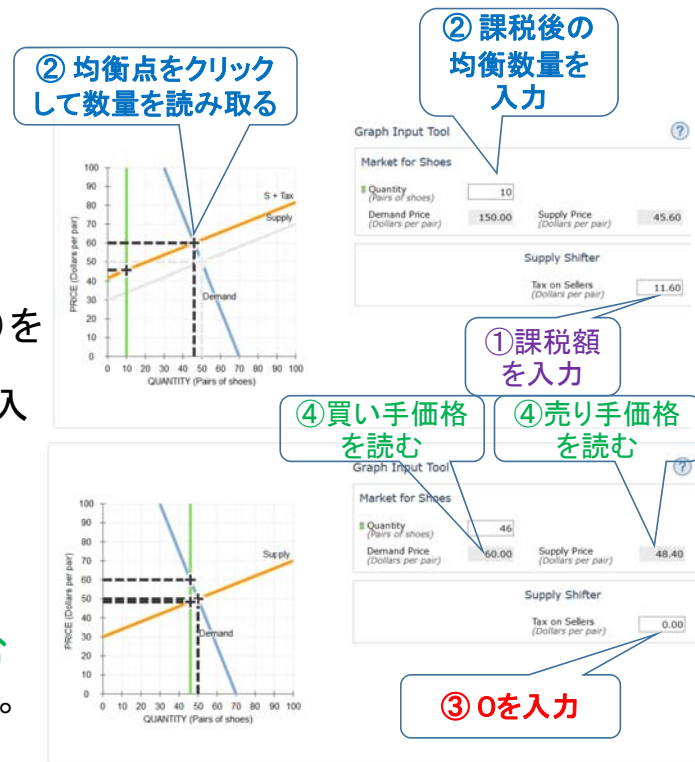
- シフト後の均衡点をクリックすると読める
- 課税後の均衡点(均衡数量, 買い手の支払額)をグラフから読み取る・・・クリックすると読める。
- Graph Input ToolのQuantityの欄に均衡数量を入力する。
- 緑の垂直線が均衡点までシフトする

## ③ 課税前: Tax on Sellersに0を入力

- 課税前の供給曲線に戻る。

## ④ 課税後の買い手価格と売り手価格を読む

- 買い手価格－売り手価格＝課税額を確認する。



5

# 誰がどれだけ税負担をするか？

## • 税の支払と負担は異なることに注意。

- この問題では、支払は売り手。
- でも、負担は両方(売り手と買い手)。

## • 税の負担は、誰が税を支払うかでは決まらない。

- 負担金額は、需要関数・供給関数の傾きに応じて決まる。

## • 価格に反応しにくい方が税を多く負担

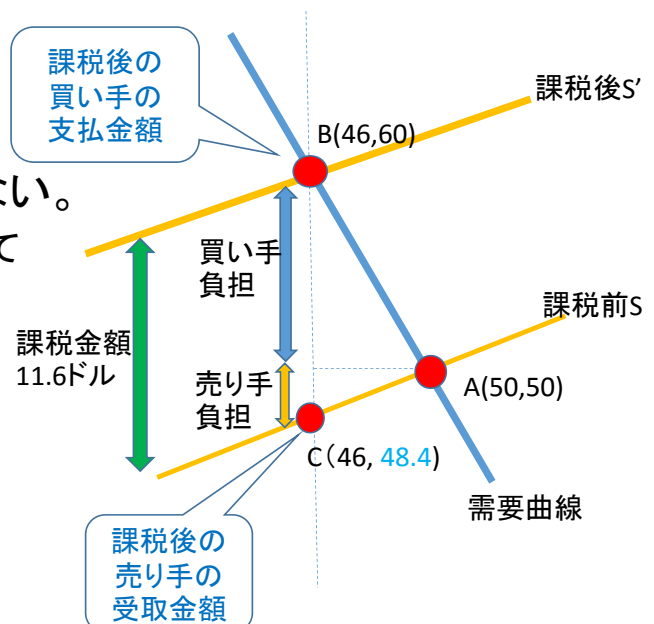
- 非弾力的＝傾きが急＝税負担重い
- 弾力的＝傾きが緩い＝税負担軽い

## • 課税後の買い手

- 靴代60ドル支払・46単位購入・10ドル税負担

## • 課税後の売り手

- 靴代48.4ドルの受取・46単位販売・1.6ドル税負担



6

# 弾力性と税の負担

- 中間値メソッドを使って弾力性を求める(中間値メソッドについては番外編で解説)

- 需要の価格弾力性 =  $-\frac{\text{需要量の変化率}}{\text{価格の変化率}}$

- 供給の価格弾力性 =  $\frac{\text{供給量の変化率}}{\text{価格の変化率}}$

- 数量が価格に対して弾力的  
⇒数量の変化に対して価格が反応しにくい  
⇒均衡の変化に対して負担金額の変化が少ない。

- 弾力的であるほど、税に対する負担が軽い。
- 非弾力的であるほど、税に対する負担が重い。

	課税前	課税後	平均値	変化量	変化率
需要量	50	46	48	-4	-100/12
価格	50	60	55	10	200/11

	課税前	課税後	平均値	変化量	変化率
供給量	50	46	48	-4	-100/12
価格	50	48.4	49.2	-1.6	-400/123